

5. 感想 上記の i), ii) とともに筆者の想像であるが、現場での感じとしては ii) が実際に近かったのではなからうかという気がする。実際、積乱雲の中に入っても雲の発達段階や、雲の部分によっては大した乱気流に遭遇しないで済むこともあるであろう。しかし雷雲は航空にとっては最悪の天気現象の一つである。乱気流のほかに雷撃をうけることもあり得る。とくに高所まで発達している雷雲は危険である。今の気象技術では一つ一つの雷雲の性質まで予報することは到底できない。また予想の範囲も第3図や第4図に示されているようになりにくくあって、機長の側から見ると決して満足すべきものではない。それでもここに掲げた程度の予報はかなりよく出来たほうであろうと思われる。

気象技術の現状と航空側の要求とをどこで妥協させるかということは今後とも大きな問題であるが、もしやむを得ず積乱雲に入る場合には十分な準備態勢のもとでなされなければならないことだけは強調しておきたい。

参考文献

- 1) 航空機事故調査報告書 カナダ太平洋航空機及び BOAC 航空機事故技術調査団 昭和42年6月22日。
- 2) Manual on Meteorological Observing in Transport Aircraft 1966, WMO.
- 3) Aviation Weather, U.S. Weather Bureau & F.A.A., 1965.

第15期第2回常任理事会議事録

日時 昭和43年9月9日 15.00~18.00

場所 気象庁予報部会議室

出席者 大田, 毛利, 小平, 根本, 岸保, 大井, 神山, 北川, 松本, 朝倉, 竹内 常任理事, 須田理事

報告

庶務: 1. 昨今秋の臨時総会で議決された定款の一部変更を12月23日付で文部大臣に認可申請していたところ8月31日付委大第6の3号で認可された。

2. 春季総会で議決された、在学中の会員の会費を優遇するための定款の一部変更認可申請を9月2日東京都教育委員会経由で文部大臣に提出した。

3. 8月24日第14期役員の登記をした。役員定数その他を含む定款の一部変更が認可になったので、引続き第15期役員の登記を行なう。

4. 9月29日第15期評議員就任依頼の書面を発送した。また同日付で第14期評議員に礼状を出した。

5. 山路ふみ子自然科学振興財団から本年度の奨学賞受賞候補推薦の依頼がきた。メ切11月30日

地物研連: 1. 第4回国際大気電気会議の経験により大気電気の関係の母体を明確にすることが必要となったので、日本学術会議地物研連の中に「大気電気小委員会」として存置するよう地球電磁気分科会と気象分科会が共同で提案することになった。

2. IUGGの日本の分担金は第三流国並の\$6,000

であるが\$10,000に値上げしてカナダ、西独並とするよう要請されている。

集誌: 英文による気象学会入会案内書がなくなったので一部改訂の上印刷したい。

天気: 天気に関するアンケートの結果を有効に活用するようにしたい。

学会賞: 朝日賞候補は前回と同一とし、山本義一氏を推薦する予定(題目大気放射学の研究)

議題

議決事項

1. 学術会議科学研究費問題について

科研費問題の現状を知るために、今回の常任理事会に事情に詳しい適当な人を招き経過、意見などをきくこととなった。

2. 外国文献刊行の計画について

須田委員から提案された計画案を承認し、着手する。計画概要は天気公示する。

3. Prof Scherhag 招へいについて

訪日の意向があることが判ったので気象学会が招へいする(昭和43年2月19日常任理事会決議参照)担当を大井理事とし、北岡竜海、和田英夫の3氏で招へいのための実行委員会を作り推進する。

4. 第6回理工学における同位元素研究発表会の共同主催について運営委員は気象研の矢野直氏とする。